

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372100731		
法人名	有限会社マインド		
事業所名	グループホーム葵 (1)		
所在地	愛知県岡崎市丸山町字仲畑8番地1		
自己評価作成日	令和4年10月31日	評価結果市町村受理日	令和5年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouyoCd=2372100731-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和4年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様一人ひとり残された残存能力は違いますが少しでも長く身体が動く喜びを感じて頂ける様お手伝いをさせてもらっています。 何かあった際には協力医の先生と相談をさせて頂きケアをさせて頂いています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>近辺には田畑が広がり乙川が流れ昔の風情を感じる細い街並みや町工場が点在する中に事業所が位置し、近くには保育園や中学校、公民館、がある。宅所からの歴史を有し、「心安らくもうひとつの家」を理念に、いつまでも元気で生きいきとした生活ができるようにと職員は話し合いを重ね、ケアに繋げるように心がけている。コロナ禍で地域との繋がりは今も踏み止まっているが、地域の防災訓練に入居者と一緒に参加したり、地元消防団の協力を得て事業所内でAEDの講習や水害を想定した土嚢積みの訓練など災害への備え、事業所の夏祭りやクリスマス会に子ども会を招いてのイベント、地域の祭りの子ども獅子や神輿の立ち寄りなど、地域と繋がる楽しみや祭りを通して昔の郷愁を懐かしむ数々の催しの再開を心待ちにしている。中学校支援学級と手紙や年賀状の交換を通してほのほのとした交流は、コロナ禍の状況を確認して継続し入居者の心の拠り所となっている。入居者の好みや季節の素材を活かした手作りの食事の提供や職員の見守りの中で散歩に出かけたりして、今、ホームで出来ることを支援に活かすように努めている。居間では、テレビを見たり、新聞を読んだり広告を見て会話をしたりして楽しく過ごしている。職員は、一人ひとりの笑顔と想い、その人なりの個性を大切に支えていけるように気持ちを一つにしてケアに努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(心安らぐもうひとつの家) 思いやりの気持ちを大切にし寄り添いお手伝いをさせて頂いている	事業所理念の「心安らぐもうひとつの家」を各フロアに掲示し全職員がいつでも確認できるようにしている。職員は入居者と家族のような関係を目指し、自分の家のような生活ができる事を目標に支援をしている。毎日の申し送り時や会議、研修等で理念を再確認し、職員の行動指針として日々のケアを振り返りながら共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の組に入りかいらんばんなどを回して頂いている。 参加出来る時は盆踊りお祭りの見学をしている (今年は開催中止)	町内会に加入し、回覧板で地域の情報を得ている。町内会の総代とは日常的に交流し情報交換をしている。コロナ禍により地域の防災訓練や盆踊り、お祭りは中止となっているが、掃除活動はできる範囲で参加したり、日々の散歩を通して日常的な交流を維持している。事業所の夏祭りは中止とし、子ども会や地域の方々を招いての施設行事も感染予防のため見合わせている。中学校支援学級とは野菜や手紙を頂いたり年賀状の交換をするなどして交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の行事で参加できそうな事は利用者と参加している(消防訓練、お祭り等) (今年は開催中止)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には介護支援相談員さんも参加して頂いているので他の施設の情報も入るので良い点はサービスを見直しています。 (今年は開催中止。)	入居者や町内会の総代、民生委員、介護相談員、地域包括支援センター職員の参加を得て年6回実施しているが、コロナ感染防止のため書面で事業所の運営状況や活動内容などを報告している。家族には、個人情報保護のため議事録は送っていないが面会時に話すようにしている。	入居者家族に運営推進会議を通して行政からの情報や地域の取り組みなど様々な情報を得る機会であることを知って頂き、メールやラインなどを利用して年間計画などで予定を知らせたり、案内をしたりして多くの家族の関心が得られるような工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所内で話し合い結論が出ない場合は介護保険課に相談したり相談はさせて頂いています	行政担当窓口には、介護保険更新手続きや申請の代行業務などで出向している。施設の空き状況や入居状況を伝えたり、サービスの取り組みの相談をしたり、地域の困難事例の受け入れの依頼を受けるなど良好な協力関係を築いている。職員は市主催のズーム研修などに参加し、サービスの向上に繋げている。グループホーム部会の参加はコロナ感染防止のため自粛している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今回は勉強会を1回しか行っていないが申し送り等で話す	マニュアルを利用して身体拘束の勉強会やオンライン研修に参加して拘束やスピーチロックをしないケアや接遇など具体的な行為について理解を深めるようにしている。日々のケアの中で気になることはお互い言い合える関係作りを努めている。内容によっては申し送り時やヘルパー会議で話し合い、その人にあったケアができるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ヘルパー会議又は申し送り時で話し合いをする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在こちらのユニットはいません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族からの心配事を聞き入れ十分な説明を行い納得して頂けてます。 (契約前後もその都度対応させていただいています。)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の方が毎月訪問され利用者様の要望を聞き入れた時は伝えていますが去年3月からコロナ感染予防の為市役所から中止の通達あり。今年8月から訪問有	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き毎日の申し送りや「気づきノート」に記録している。月1回の勉強会で要望等の内容を検討し情報を共有して運営に反映させている。家族からはコロナ禍のため面会が可能な時に意見や要望を聞き「面会ノート」に記録したり、メールやラインを利用して日頃の様子や写真などを配信したり、家族からの疑問や意見を述べやすい環境を整え運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見を聞き入れる体制を心がけています。 年に2回上司と面談する機会があります	日頃から遠慮なく話せる関係作りに努めている。人事考課を導入し、自己評価やスキルアップ計画を立て目標と向上心を持ってより良いケアに繋げるよう努めている。管理者とは年2回の面談や随時話し合う機会を持ち、業務や職場環境などに反映させている。事務所には社長と直接連絡するポストが設置され、要望や意見が述べやすい環境を整えている。出された意見には真摯に向き合い改善を図るように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を行い向上心を持って働いてもらえるように努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人ひとりにスキルアップ計画を立て目標を持って仕事してもらっています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム小部会に今年はコロナ感染予防の為出席していません 岡崎市が開催する事はzoomにて参加します		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様のこれまでの生活状況を把握しその人らしい生活が出来る様に努めています。 買い物など必要があれば行っています。 (代行するがLINEにて好みなどはその都度聞き購入します)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望がある場合お支払い時面会時に相談できる様に声掛けを行っています (LINEにて対応、管理者と共有する)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず入居前に現在利用されているサービスに訪問し様子を聞き入れ家族に見学に来て頂き、話を伺い納得して頂き入居して頂いています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のペースで生活をして頂き出来そうな事は見守りながら一緒に行うようにしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や知人の方の訪問が気軽にできるように訪問時は気分よく過ごして頂ける様、心がけていますが今年はほとんど面会中止		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染が流行してからほとんど行わず家族の差し入れにて対応しています 請求時LINE又はメールにて写真、動画対応する利用者さん有)	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人や場所を把握し、入居者が大切にしてきた物事が続けられるような支援に努めている。コロナ禍のため今まで継続してきた友人の面会や家族とお墓参り、自宅で家族と過ごすなどの支援は踏み止まっている。現在は家事の継続に努めたり、花や野菜作り、歌や字を書いたりしながら今まで培ってきた経験を日常に生かしている。個人で新聞の購読や牛乳の配達を利用している入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの利用者様には気の合う方とフロアで会話をされています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在行っていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ多くの利用者様と会話をし日々の行動、表情を見極め何かして欲しい事があれば出来るだけ聞き入れる(家族に電話する)	日常の入居者との関わりやさりげない会話、表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったことを気づきノートや日々の申し送り時に職員間で共有してケアに繋げている。また、入浴時や就寝前など比較的ゆっくりとした時間を利用して、入居者が少しでも会話をしたり、一言でも言葉を発することができるような働きかけをしながら接したり、入居者の気持ちに寄り添ったりして思いや希望を聞くようしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境などを本人や家族伺い出来る限り利用者本位の生活をして頂ける様に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフの言葉かけ行動はゆっくりする様に心がけ利用者様のペースに合わせる様にしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様一人ひとりの生活状況を観察し要望を把握し介護計画を作成し支援内容を共有出来る様にしています	経過表に日々の様子や気になる事を記録し、職員で共有し確認しながらケアに努めている。毎月、管理者や計画作成者、各ユニット1名の職員によるヘルパー会議を開催し、経過表を基に問題点や課題について話し合いを持つと同時に、モニタリングと計画の見直しを行っている。会議に出席できなかった職員にはラインを利用して情報を共有している。計画作成者は医師や看護師などの意見や家族の意向等踏まえながら現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人ひとりの経過表、水分摂取量、健康チェック等を記録し問題点を会議で話し合いを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況を家族に知って頂ける様毎日ブログを行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に総代、民生委員、子供会役員さんに出席して頂いており夏祭り等の行事に町内の方にもボランティア参加して頂いています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の心身の変化が異常が起きた時気軽に相談できる医療機関を確保しています あおい在宅クリニック 田口 栄一先生 往診月1回又は2回	入居時にかかりつけ医の継続か提携医かの希望を聞いているが、全員提携医の往診を希望している。内科は月1回及び2回の往診が受けられ、提携医の看護師と常時連絡が取れるようになっている。歯科は必要に応じ訪問歯科を利用している。かかりつけ医や専門医受診は家族の協力を得ている。身体状況に変化があった時や緊急時は、24時間対応で提携医や協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療を受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化が起きた場合協力医との確実な連携を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、早期退院の為の話し合いや協力を医療機関と行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合、協力医の先生から家族に説明をして頂きグループホーム葵で行える支援を話し合い行っています	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにして家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度入居者や家族に希望を再確認し、提携医や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように努め、可能な限り希望に添うよう支援をしている。看取りの経験もあり、職員のメンタルケアの勉強会も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時、緊急対応についてのマニュアルを作成し周知徹底を図っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近所、町内の災害支援の方達に協力して頂ける事になっています	年2回地元消防団の協力を得て火災や地震、洪水など様々な災害を想定した避難訓練を昼間や夜間の職員体制で実施している。避難誘導や避難経路の確認と建物外への避難、水消火器を使い初期消火訓練、大型台風時の水害を想定した土嚢を積む訓練も実施している。問題点は話し合い改善に努めている。備蓄品は水や食料3日分を準備し、ヘルメットや防災頭巾、ポータブルトイレなどを用意している。作成したリストは常に確認している。防災リュックは玄関と2か所の非常口に常備している。コロナ対応として玄関と非常口はオープンにし感染予防対策をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の言葉掛けは常に穏やかに接する様周知しています	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。呼び名をさん付けで統一し、馴れ馴れしさや雑になりがちな言葉使いに配慮した支援に努めている。また、その人が不快と感じることなど職員相互にチェックし合い、入居者の個性や人格、相性や性差などを考慮し、人間関係にも注意を払った言葉使いや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来る方、出来ない方関係なく出来るだけ要望に応じています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり気持ちを尊重し出来るだけ個別ある支援をしています 自室で休んで頂いたり散歩等一人ひとりの思いに対応しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年に4回理容の方にグループホーム迄来て頂きカットを行います		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の要望を聞き対応出来るのであれば調理をしている (当日のメニューをボードに書いて頂ける)	入居者の希望や好みを聞いてメニューを決め、旬の食材を取り入れて毎食手作りしている。職員と一緒に週3回買い物に出かけ食品を選んでいたが、コロナの感染予防のため入居者の買い物は見合わせている。手作りおやつや寒天や、栗羊羹、おはぎなどは楽しみの一つとなっている。テーブル拭きや後片付けはその人の得意分野を生かし、職員と一緒にやっている。現在は職員は同じテーブルを囲むことは出来ないが、休憩室で同じ食事を摂り、味付けや柔らかさ、彩などのチェックをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食事量を主・副に分け10割で記入をします 水分摂取量も記入しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所に誘導し口腔ケアをして頂いています 週に1度、義歯洗浄コップを洗浄しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄時間を表に記入し排泄時間を把握しなるべく失敗が減少する様にしています	詳細に記録された日々の記録を参考に排泄記録を作成し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、さりげない声掛けやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。状況によってバットの種類を使い分け、不快感や睡眠を妨げないように配慮している。日中は自力での排泄を目指している。夜間でも尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、声掛け誘導と見守りの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や運動をして頂き自然な排便が出来る様に働きかけていますが2日排便が無い方は下剤を服用して頂いています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在2日おきに入浴をして頂いています。入浴を嫌がる方は無理にせず時間をずらしたり、曜日を変更して入浴を行っています	入浴は2日おきで午前中を入浴時間としている。ボディシャンプーは、弱酸性の肌に優しいタイプを使用し肌トラブルの無いよう配慮している。柚子を頂いた時にはゆず湯で季節を感じたり、香りを楽しんだりしている。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は庭に出たり、身体を動かして頂き生活リズムを整えるようにしています (年齢層が高いのでお昼寝も取り入れ対応)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋用紙を一人ひとりの経過表にはさみスタッフ全員が把握出来る様にしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、役割、分担を決め仕事をしたという充実感を味わって頂ける様に努めています (掃除、ベットメイキング、掃除、たたみ物等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在家族との外出、外食は行っていない 病院受診は家族と受診 (あおい在宅クリニック以外)	日常的に散歩や買い物に出かけられる環境にあり、入居者一人ひとりの希望に沿って日々の買い物などの外出支援をしていたがコロナ禍により見合わせている。お天気の良い日には花壇の水やりや手入れをしながら外気に触れることを大事にした支援に努めている。春にはコロナの感染状況を確認し対策をしながら公園のお花見に出かけた。今後、家族と一緒に外出や外食をしたり、お弁当を持って季節の花見に出掛けられる日を心待ちにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は行っていません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があればその都度対応しています (家族への対応はLINE対応)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁には季節にあった飾りつけや誕生日の写真利用者様の作品が飾ってあります	共用空間は食堂と居間がワンフロアとなっている。天窓から採光を取り入れたり、空気の入替えのための換気をしている。居間の壁には季節に合わせた飾りつけや華美にならない程度に入居者の作品を飾り、毎日入居者と掃除をして清潔感のある居心地の良い生活空間作りをしている。キッチンからは入居者の動きや気配がよく見渡せ、調理を行いながら入居者を見守ることができる。入居者は居間でテレビを見たり、新聞を読んだり、おしゃべりをしたりしてのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはソファが設置してあり気軽に座ってくつろげる様に工夫しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人の使い慣れた物を持参して頂いています (タンス、家族の写真、テレビ、ぬいぐるみ等)	居室には使い慣れた筆筒やテレビ、仏壇など、自宅で使用していたものを持ち込み安心できる環境づくりをしている。また、愛着のある手作り作品やぬいぐるみ、家族の写真などを飾って自分らしく落ち着いて過ごせるよう配慮をしている。清掃はを自身で行うことを基本とし、自立した生活が送れるよう支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの手すりが設置してありトイレの入り口に目印が貼ってあります		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372100731		
法人名	有限会社マインド		
事業所名	グループホーム葵 (2)		
所在地	愛知県岡崎市丸山町字仲畑8番地1		
自己評価作成日	令和4年10月31日	評価結果市町村受理日	令和5年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouyoCd=2372100731-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和4年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様一人ひとり残された残存能力は違いますが少しでも長く身体が動く喜びを感じて頂ける様お手伝いをさせてもらっています。 何かあった際には協力医の先生と相談をさせて頂きケアをさせて頂いています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>近辺には田畑が広がり乙川が流れ昔の風情を感じる細い街並みや町工場が点在する中に事業所が位置し、近くには保育園や中学校、公民館、がある。宅所からの歴史を有し、「心安らくもうひとつの家」を理念に、いつまでも元気で生きいきとした生活ができるようにと職員は話し合いを重ね、ケアに繋げるように心がけている。コロナ禍で地域との繋がりは今も踏み止まっているが、地域の防災訓練に入居者と一緒に参加したり、地元消防団の協力を得て事業所内でAEDの講習や水害を想定した土嚢積みの訓練など災害への備え、事業所の夏祭りやクリスマス会に子ども会を招いてのイベント、地域の祭りの子ども獅子や神輿の立ち寄りなど、地域と繋がる楽しみや祭りを通して昔の郷愁を懐かしむ数々の催しの再開を心待ちにしている。中学校支援学級と手紙や年賀状の交換を通してほのほのとした交流は、コロナ禍の状況を確認して継続し入居者の心の拠り所となっている。入居者の好みや季節の素材を活かした手作りの食事の提供や職員の見守りの中で散歩に出かけたりして、今、ホームで出来ることを支援に活かすように努めている。居間では、テレビを見たり、新聞を読んだり広告を見て会話をしたりして楽しく過ごしている。職員は、一人ひとりの笑顔と想い、その人なりの個性を大切に支えていけるように気持ちを一つにしてケアに努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(心安らぐもうひとつの家) 思いやりの気持ちを大切にし寄り添いお手伝いをさせて頂いている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の組に入りかいらんばんなどを回して頂いている。 参加出来る時は盆踊りお祭りの見学をしている (今年は開催中止)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の行事で参加できそうな事は利用者と参加している(消防訓練、お祭り等) (今年は開催中止)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には介護支援相談員さんも参加して頂いているので他の施設の情報も入るので良い点はサービスを見直しています。 (今年は開催中止)		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所内で話し合い結論が出ない場合は介護保険課に相談したり相談はさせて頂いています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年は勉強会を1回しか行ってないが申し送り時で話す		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ヘルパー会議又は申し送り時にて行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2人は後見人の利用をしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族からの心配事を聞き入れ十分な説明を行い納得して頂けてます。 (契約前後もその都度対応させていただいています。)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の方が毎月訪問され利用者様の要望を聞き入れた時は伝えていますが去年3月からコロナ感染予防の為市役所から中止の通達あり。 今年8月から訪問有		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見を聞き入れる体制を心がけています。 年に2回上司と面談する機会があります		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を行い向上心を持って働いてもらえるように努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人ひとりスキルアップ計画を立て目標を持って仕事してもらっています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム小部会に今年はコロナ感染予防の為出席していません 岡崎市が開催する事はzoomにて参加します		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様のこれまでの生活状況を把握しその人らしい生活が出来る様に努めています。 買い物など必要があれば行っています。 (代行するがLINEにて好みなどはその都度聞き購入します)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望がある場合お支払い時面会時に相談できる様に声掛けを行っています (LINEにて対応、管理者と共有する)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず入居前に現在利用されているサービスに訪問し様子を聞き入れ家族に見学に来て頂き、話を伺い納得して頂き入居して頂いています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のペースで生活をして頂き出来るような事は見守りながら一緒に行うようにしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や知人の方の訪問が気軽にできるように訪問時は気分よく過ごして頂ける様、心がけていがほとんど面会中止		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染が流行してからほとんど行わず家族の差し入れにて対応しています 請求時LINE又はメールにて写真、動画対応する利用者さん有)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの利用者様には気の合う方とフロアで会話をされています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在行っていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ多くの利用者様と会話をし日々の行動、表情を見極め何かして欲しい事があれば出来るだけ聞き入れる(家族に電話する)		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境などを本人や家族伺い出来る限り利用者本位の生活をして頂ける様に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフの言葉かけ行動はゆっくりする様に心がけ利用者様のペースに合わせる様にしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様一人ひとりの生活状況を観察し要望を把握し介護計画を作成し支援内容を共有出来る様にしています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人ひとりの経過表、水分摂取量、健康チェック等を記録し問題点を会議で話し合いを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況を家族に知って頂ける様毎日ブログを行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に総代、民生委員、子供会役員さんに出席して頂いており夏祭り等の行事に町内の方にもボランティア参加して頂いています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の心身の変化が異常が起きた時気軽に相談できる医療機関を確保しています あおい在宅クリニック 田口 栄一先生 往診月1回又は2回		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化が起きた場合協力医との確実な連携を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、早期退院の為の話し合いや協力を医療機関と行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合、協力医の先生から家族に説明をして頂きグループホーム葵で行える支援を話し合い行っています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時、緊急対応についてのマニュアルを作成し周知徹底を図っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近所、町内の災害支援の方達に協力して頂ける事になっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の言葉掛けは常に穏やかに接する様周知しています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来る方、出来ない方関係なく出来るだけ要望に応じています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり気持ちを尊重し出来るだけ個別ある支援をしています 自室で休んで頂いたり散歩等一人ひとりの思いに対応しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年に4回理容の方にグループホーム迄来て頂きカットを行います		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の要望を聞き対応出来るのであれば調理をしている (当日のメニューをボードに書いて頂ける)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食事量を主・副に分け10割で記入をします 水分摂取量も記入しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所に誘導し口腔ケアをして頂いています 週に1度、義歯洗浄コップを洗浄しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄時間を表に記入し排泄時間を把握しなるべく失敗が減少する様にしています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や運動をして頂き自然な排便が出来る様に働きかけていますが2日排便が無い方は下剤を服用して頂いています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在2日おきに入浴をして頂いています。入浴を嫌がる方は無理にせず時間をずらしたり、曜日を変更して入浴を行っています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は庭に出たり、身体を動かして頂き生活リズムを整えるようにしています (年齢層が高いのでお昼寝も取り入れ対応)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋用紙を一人ひとりの経過表にはさみスタッフ全員が把握出来る様にしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、役割、分担を決め仕事をしたいという充実感を味わって頂ける様に努めています (掃除、ベットメーカー、掃除、たたみ物等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在家族との外出、外食は行っていない 病院受診は家族と受診 (あおい在宅クリニック以外)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は行っていません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があればその都度対応しています (家族への対応はLINE対応)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁には季節にあった飾りつけや誕生日の写真利用者様の作品が飾ってあります		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはソファが設置してあり気軽に座ってくつろげる様に工夫しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人の使い慣れた物を持参して頂いています (タンス、家族の写真、テレビ、ぬいぐるみ等)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの手すりが設置してありトイレの入り口に目印が貼ってあります		